

Press Release



令和6年12月17日

教育委員会

テーマ「^{まち}街」に関する展覧会を2つ同時開催します

「街」をテーマにした展覧会を開催します。ひとつは唐津市所蔵で佐賀県重要文化財に指定された油彩画「^{きせんず}貴賤図（^{ごしよぐるま}御所車）」を紹介する展覧会。もうひとつは唐津出身で美術を学ぶ大学生・^{しらつみゆ}白津愛優さんの展覧会です。この機会に、どうぞご覧ください。

1 展覧会名

「佐賀県重要文化財指定記念 特別展示 ^{かわむらきよ お}川村清雄、どうして唐津に？」

「R6 学び舎プロ 唐松アートステューデント ^{しらつみゆ}白津愛優 ^{ディグ}「digる」展」

※会期等は全て共通

2 日 時 12月20日（金）～令和7年1月9日（木）

10時～18時（入場は17時30分まで）

3 会 場 近代図書館 美術ホール

4 内 容 油彩画、陶芸、版画

5 入場料 無料

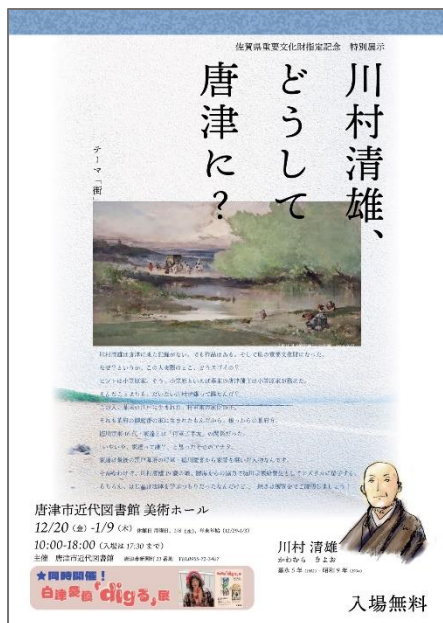
6 主 催 近代図書館

（本件の問い合わせ先）

教育委員会事務局近代図書館

担当：学芸係 松谷、坂元

電話：直通72-3467（内線3191）



川村清雄は唐津出身ではありませんが、唐津藩最後の藩主・小笠原長国の孫である小笠原長生に庇護されました。本展で展示する「貴賤図（御所車）」は小笠原長生に依頼を受けて手掛けたもの。それが小笠原家より唐津の小笠原記念館（管理していたのは久敬社）に作品が寄贈され、さらにその後、唐津市へと作品が寄贈されたという流れを辿っています。

川村清雄は日本の歴史のなかで極めて早く西欧に赴き、油彩画を学んだ人物です。元々は江戸幕府の御庭番の家に生まれました。徳川家ゆかりであることから、徳川家の派遣留学生としてアメリカに渡ります。元の目的は法律を学ぶことでしたが、画業を学ぶことに目的を切り替え、後にパリやヴェネツィアで本格的に学びます。

明治以降の日本の美術を見たとき、西洋絵画を受け入れていった文脈を重視する視点は存在し、その意味では中心的な位置にはいなかったのですが、他にない展開を見せています。優れた技術や当時の日本画的感覚を見出した日本の情緒あふれる作品は見直されています。

令和5年度に本作が佐賀県重要文化財に指定を受けました。より後世へ「守り・受け継ぎ・伝える」責務を果たすため、本年度、作品の修復も実施いたしました。本展覧会は、唐津における絵画の文化財を伝えることを狙いとしています。

川村清雄「貴賤図（御所車）」
油彩画 1898年頃制作



紹介動画

→唐津市公式YouTube チャンネル
近代図書館コレクション③
川村清雄





R6学び舎プロ 唐松アートステューデントとは？

唐津市域出身で美術を学んでいる大学生等を紹介するものです！

昨年度から試行的に実施しているものです。

今回はどんな学生？

唐津生まれ、唐津西高校出身、現在も唐津在住で佐賀大学芸術地域デザイン学部1年生の白津愛優^{しろつ み ゆ}を紹介します

どういう内容？

テーマを「街」としています。

白津は学校の部活動ではなく、自らの意思で唐津焼の窯元に通い、陶芸作品を手がけました。

大学進学に際しては、より陶磁器など伝統工芸産業の流通・マーケティングの方面の学びを得たいと思い、芸術地域デザイン学部のなかでも、創作を軸とする芸術表現コースではなく、地域の文化資源などを学ぶ地域デザインコースを選びました。

今回は「街」という意味で、唐津で生まれ育った若者が、唐津焼を通じて培った純朴な視点を特に紹介するものとし、陶芸作品を中心に紹介します。

見どころは？

最新作「0：57a.m」(版画)は、ラーメンで知られる株式会社マルタイ様の『ラーメン「これだ」』のパッケージを取り入れたものです。

もちろん！株式会社マルタイ様の許可を得ております。

100枚の版画でカラフルに表現した本作は、様々な場面で食べてきたラーメン「これだ」を多角的に象徴する作品であり、メタ視点を持つ白津の表現性が示唆されたものです。



「0：57a.m」 版画 2024 年